

北海道静内農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 7 年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育 で人材を育てる 学校	1 「生徒一人ひとりを 一層輝かせ成長させ る教育」を行いま す。	(1) アグリマイスター顕彰制度を推奨し、 農業教育の質の向上を図る。 (2) 教科内プロジェクト学習を推進し、プ ロジェクト学習法の確実な定着とプレゼン テーション能力の向上を図る。	(1) ブラチナに 3 名、 ゴールドに 3 名、シル バーに14名を合格させ ることができた。 (2) 3 年次課題研究に て一人一プロジェクト 発表や農業教科内プロ ジェクト発表を実施で きた。	(1) 選奨生徒の増加に つながるよう指導方法 の改善と充実を図る必 要がある。 (2) 次年度も継続する とともに、個別の研究 活動が深まるよう指導 する必要がある。	5
	2 「世界と日本をつな ぐグローバル教育」 を行います。	(1) ASIAGAP認証からJGAP認証に移行す ること生産工程管理の学習を継続し、グ ローバルな視点から農業生産を分析する能 力を高める。 (2) 海外の学校や生徒との交流を実現し、 世界の中での日本や北海道について生徒が 考える機会を創出する。	(1) ASIAGAP認証を維持 し、JGAP認証への移行 を進めている。 (2) 韓国やフランスの 農業高校からの訪問団 や留学生を受け入れ、 グローバルな視点で農 業を考える機会を創出 できた。	(1) スムーズな移行を 進めるため、各関係機 関と連携する必要があ る。 (2) 英語科との連携充 実を図り、生徒が海外 派遣に積極的に応募す るよう挑戦を促す必要 がある。	4
Ⅱ 地域社会・産業 に寄与する学校	3 「地域農業の生産を 支える教育」を行いま す。	(1) 静農コンソーシアム事業をとおして高 度な専門性や実践力を養う学習を推進す る。 (2) 環境に優しい持続可能な農業技術につ いて実証的な取組と普及を行う。	(1) 関係諸団体、企業と 連携した事業を継続 し、実践できた。 (2) リジェネラティブ 農業やバイオ炭など、 みどりの食料システム 戦略に即した学習内容 を展開できた。	(1) 指導がより効果的 になるよう事前、事後 学習を充実させる必要 がある。 (2) 持続可能な農業 を、地域の農業の現状 と照らし合わせて展開 する必要がある。	4
	4 「地域の農業関連産 業や6次産業化に寄 与する教育」を行いま す。	(1) 静農コンソーシアム事業をとおして高 度な専門性や実践力を養う学習を推進す る。 (2) 栽培・飼育・加工・販売・活用の学習 をとおして6次産業化に対応した人材を育 てる。	(1) 関係諸団体、企業 との連携を継続するこ とで高度な専門性を養 うことができた。 (2) 農場内での連携に よりフードシステムの 学習を推進できた。	(1) これまでの関係性 と教育内容を精査し、 発展につながるよう取 り組みを進める必要が ある。 (2) 消費者に選ばれる 農産物及び加工品の生 産を一層強化する必要 がある。	4
Ⅲ 地球環境を守り 創造する学校	5 「地球環境を守り、 創造する教育」を行 います。	(1) 本校に隣接する二十間道路桜並木をと おして環境保全について考え、地球環境を 守る人材を育てる。 (2) カーボンニュートラルについて生徒が 自ら考え取り組む学習をとおして地球環境 を守り想像する教育を行う。	(1) 桜並木の清掃ボラ ンティアを継続でき た。 (2) カーボンファーミ ングについて外部への 普及活動ができた。	(1) 地域資源の概要に ついて更に広く生徒に 学習させる必要があ る。 (2) 地域資源を活用し たバイオ炭の製造研究 を更に推進する必要が ある。	4
	6 「地域資源を活用し、 地域振興の拠点とな る教育」を行います。	(1) 食品科学科において学校設定科目「商 品開発Ⅰ」「商品開発Ⅱ」をとおして地域 の特産品開発に取り組む。 (2) 農業の各科目において基幹産業、観光 資源を活用した学習を展開し、地域の活性 化に寄与する人材を育成を図る。	(1) 新ひだか町及び新 ひだか町の商工水産業 者と連携した商品開発 を実施できた。 (2) 農業生物を扱う科 目で地域との交流を実 施することができた。	(1) 新商品を地域事業 者が生産できるよう活 動を検討する必要があ る。 (2) 町や振興局と連携 することで地域交流を 更に推進する必要があ る。	4
Ⅳ 地域交流の拠点 となる学校	7 「Society5.0の時代 に応じた教育」を行 います。	(1) ICTを活用した農業生産物の栽培、 飼育に関する学習に取り組み、成果を地域 に発信するよう努める。 (2) パソコンやスマートフォンなどのICT デバイスやオンラインアンケートフォー ムを授業に活用するよう努める。	(1) 各種デバイスを使 用しICTを活用した研究 を行うことができた。 (2) 授業のアンケート や教材の配布などICT を活用した授業改善 に取り組むことができ た。	(1) 栽培、飼育に関す るデータの集約と整理 の指導方法を改善する 必要がある。 (2) 事前、事後学習の 充実を図るためのデジ タルコンテンツを整備 する必要がある。	4
V 地域防災を推進 する学校	8 「地域防災を推進す る教育」を行いま す。	胆振東部地震を教訓に防災意識を常に持 ち、自助、共助、公助を念頭に連携し、 『命を守る』意識を高める。	津波を想定した一日防 災学校を新ひだか町防 災係と連携して実施す ることができた。	防災意識を常に持たせ るためにも、防災避難 訓練の意義や効果的な 実施方法を検討し、防 災教育をより充実した ものにする必要があ る。	4